

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム かえで (華の街通り)		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地	0949-43-3900	
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果確定日	平成24年02月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「こころ」を中心に、一人ひとりに合った暮らしを一緒に送れるように心がけています。互いが助け合い互いが認め合う為の支援を、自己判断・自己決定や生活リハビリの中で一緒に見つめるように努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年02月08日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心 そして地域とのふれあい」という理念に基づき、日頃のミーティングでの話題や地域のイベントへの参加を通じて意識の向上に努めている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候のいい日は利用者様と建物周辺を散歩し、近隣の方との交流を深めている(川の魚見学や、土筆取り等)		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での福祉イベントなどに参加し、グループホームでの認知症利用者の豊かな生活の紹介を行なっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議を通じて、現在の利用状況やイベントの報告を行い、近隣や公的機関、利用者の御家族の意見や質問をうかがうようにし、今後のサービスに反映する様に努めている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一回の運営推進会議には、町役場の職員に参加していただいている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は門と玄関は開錠し、夜間帯は防犯目的で施錠している。身体拘束においても、ベッドや椅子からの転落防止の為、安全確保の工夫を行なっている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修で得た知識を、ミーティングでスタッフ間で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での情報や知識を積極的にケアミーティングで共有できるように協議している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り十分な時間を掛けて契約の条件や重要事項の説明を行い、契約書をまずお渡しして、御自宅で熟読していただくなどの工夫をして、納得がいくように努めている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のミーティングにて、全職員が知りうる利用者やその家族の意見や要望を出し合い、協議を行なうようにしている。また、運営推進会議に家族代表が参加し、公の場での意見交流の場を設ける		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて、代表者や管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けるようにしている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務希望やケア能力を把握し、長時間の勤務の見直しや休憩時間の確保、研修への参加などを実施している		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に性別・年齢での就業規定を取り入れていない。また職員の勤務状況や希望に応じての職場を提供できるように努めている		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の持つ権利(人権)を常に念頭にケアを行うよう、できる限り人権啓発イベントへの参加に努めている		
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の役割を通じてケア力の向上を図ったり、職員の能力や希望に応じて毎月のミーティング内でディスカッションをしたり社外の研修に参加する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームが集う「ふれあい交流会」への参加や、町主催の「元気まつり」への福祉コーナーでの参加にて同業の方々と交流を持っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず可能な限り本人の意向を聞き、信頼関係づくりに努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から現在の問題点や状況を伺い、家族との信頼づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞きながら、ケアプランを作成・実施できるようにしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に談笑しながら掃除・洗濯などを楽しく行うようにしている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時にはゆっくりと過ごしていただけるよう空間作りに配慮し、利用者の近況報告等を状況に応じて行うようにしている		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、できる限り支援している(手紙・電話の交流 ほか)		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	間に職員が入り一緒に話をしたり、ラジオ体操・フラワーアレンジメント等の行事を一緒に行うことで、利用者同士のコミュニケーションを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、利用期間中の生活の様子を撮影した写真をアルバムにまとめたものをお渡ししたり、サービス終了後に本人や家族にお困りの事が無いが、状況に応じて相談や支援に努めるようにする		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人が暮らしやすいように、利用者の意見や表情をくみ取り、家族からの情報などを生かしたケアに努める		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは利用者が可能な限り会話等のコミュニケーションをとり、家族や周囲の方からの情報も得て、その人の生活歴・病歴や嗜好を把握できるように努める		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれのの要望や身体の状態、適した食量などの把握に努めている。毎日が無理の無い過ごし方が出来るように配慮している		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、全スタッフ参加によるケアミーティングを行い、年数回の担当者会議では、本人、家族、スタッフ、ケアマネージャーでサービスについて話し合い、モニタリング・ケアプラン作成を実施している		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1時間ごとに個別のケア記録を記入。また朝と夕に職員間の申し送りの時間を設け、日々の情報を共有化してケアの向上に努めている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院送迎や個別の買い物など、このニーズに合わせ多機能なサービスの実施に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校のふれあい交流会や知己の盆踊り、餅つきなどのイベント・舞踊などのボランティア・慰問等の交流を積極的に取り入れている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診診察を取り入れている。それとは別に、個人的に希望のかかりつけ医や状況に応じた専門医への受診支援や電話相談を取り入れている		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の小規模多機能施設の看護師に、利用者の些細な事でも相談し、アドバイスや対処法などの相談をしている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の急変時等に対応できるようにかかりつけ医と昼夜問わず連絡が取れる様にしている。入院後も連絡を取り、症状の把握や退院時期のめど、退院後の注意点等の情報収集に努める		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときは利用者や家族と相談して、かかりつけ医と緊急時の話し合いをして対応している		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに応じ、対応ができるようにしている。また、緊急対応の研修などに積極的に参加している		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、避難訓練を行なっている。訓練をする事で、避難手順・避難経路・避難場所などを把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者全員の皆様が、今までどれほどご苦労され生きてこられたかを常に考え、お一人お一人のプライバシーがお守りできますようにいつも心がけている		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも御自分がしたいことや欲しい物が表現できるように心を通わせるようにしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常に利用者の体調や気分、精神状態に気配りをしつつ、希望に添った生活が出来るように支援を行なっている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の好みを理解して、一緒に買い物に出掛けたり洋服を選んだりのお手伝いをしている		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者全員が、談笑をしながら楽しくお食事ができるよう、又、メニューも希望をお聞きしたり季節の物を沢山取り入れて提供をしている		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者yの体調に気配りをしながら食事の量やバランス、水分が、毎日平均してきちんと摂取出来る様心がけている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れ、口の周りの汚れ等、御自分で口腔ケアを行なえない方は、毎食後特に注意して温かいお絞りのタオルで拭くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認しながら個々のパターンに合わせて声掛けや誘導にて介助を行い、気持ち良く排泄していただいている		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用しながら繊維の多い食物を提供したり、水分補給に留意している。又、腹圧のかかりやすい姿勢や軽い運動への声掛けを実施している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を特定せず、利用者の希望を聞きながら、その日の気候や体調と照らし合わせて概ね週に2～3度ずつ入浴していただくように支援している		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通じ利用者の希望や体調に合わせて休んでいただくように心がけている。室温や明るさを調整し、必要に応じて体位交換を行うことによって気持ちよく休んでいただいている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疑問が生じた場合には即座に確認できるように「お薬情報提供書」のファイルを置き、全職員の薬剤についての理解を徹底している。又、服薬はその都度チェック表に記入している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る仕事は各人に応じて手伝って頂き、感謝の言葉を掛ける事によって張り合いや誇りを感じていただけるように努めている。又、散歩、ドライブ、イベント、カラオケ等、希望に応じて楽しんでいただくように心がけている		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野草摘みや中庭での家庭菜園にて、季節ごとの野外活動に参加していただいたり、日々の日光浴、散歩、ドライブ等、支援している。又、御家族の協力を得ての一時帰宅やドライブ、買い物等の支援を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設側で管理し、希望があればその都度職員が買って来たり、買い物に同行し、その場で現金を渡したりする(紛失防止のため)		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、親戚・家族等にその都度電話を掛けていただいている		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の汚れやすい場所は湯画家濡れて利用者の転倒等が無いよう常に確認し、その他問題があれば迅速に対応する		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	理文具ルームにテレビやソファを設置。食道も兼用なので個々の座席も確保している		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はこまめに清掃。家具等は出来るだけ個人が以前使用されていたものを持参していただく		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりの設置や通路に不要な物を置かないように心がけている		